（様式１）

県立磯原郷英高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

学校の教育目標

〇知性、徳性、体力の調和のとれた人間性やひたむきに物事に取り組む姿勢を養う。

〇適正や能力に応じた生徒一人一人の自己実現ができるよう支援する。

〇地域、日本そして世界の明日を担う有為な人財を育成する。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

自らの人生と社会の未来を考える活動を通して、社会の中で役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくために必要となる資質・能力、未来開拓力を育む。

総合的な探究の時間の学習評価

〇知識・技能： 北茨城市の自然、歴史、文化、産業、社会問題などに関する知識を理解し、自身の進路探究活動に活かすことができる。

〇思考力・判断力・表現力：分析・考察に基づき、自分の興味・関心、能力、適性などを考慮して、主体的に進路を選択・判断しようとしている。

〇学びに向かう力、人間性等：グループワークや地域住民・ゲストティーチャーとの交流を通して、協力して活動を進める姿勢を持ち、地域課題解決に貢献したいという意欲から積極的に行動している。

生徒の実態

全体的に明るく素朴である。

学力面については、基礎的・基本的な知識とその能力が十分に身についていない。

友人関係を重んじる生徒が多く、友人と関わり合う日常が、生徒全体の心身の成長につながっている。

学力面、生活面ともに教員のサポートを必要とする生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか
〇配慮を必要とする生徒への指導

・個々の生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

・「合理的配慮の必要性」の理解を進め、互いの特性を認め合い、支え合う関係を築く。

目指す生徒の姿

〇主体的に自らの学びを調整できる生徒（生涯にわたって学び付ける生徒）

〇自らの適正や能力に応じた生き方を選択し、実現できる生徒

〇企業人として、地域住民として、地域に貢献できる生徒

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

【自己理解・自己管理能力】

他者と協働して探究を深めたり、個別に課題研究に取り組み、その成果を発表したりする中で、自己の役割の理解や自分で動機付けして前向きに考え行動する力など、自己理解・自己管理能力の育成を目指す。

【地域理解・社会理解】

地域企業と連携する中で、地域の現状と課題を分析し、解決策を考え、実践する活動を通して、地域理解力・社会理解力を育成する。

【コミュニケーション能力】

グループ学習や校外学習、ゲストティーチャーから学ぶ機会などを通して、コミュニケーション能力や他者理解力などの人間関係形成能力の育成を目指す。

【調査スキル・整理スキル・ソーシャルスキル】

自ら課題を設定し、主体的によりよい解決策を導く学習を通して、情報の選択・処理・分析力、課題発見力、問題の本質を捉えて解決策を立案する力、他の意見を踏まえて改善する力など、課題対応能力の育成を目指す。

【自己表現力】

将来の進路選択や人生設計について考える力を高めるなど、キャリアプランニング能力（自己表現力）の育成を目指す。

学習活動、指導方法等

〇１年次 「自分を知り、社会を知る」

自己理解を深めるとともに社会理解を進め、自分の適性を見極める。その際、他者の意見を受け入れることで、自身の考えを深化させる。

〇２年次 「自分と地域社会との関わりを考える」

「地域社会の在り方」や「地域社会と自分とのより良い関わり方」を考え、自分の進路を研究する。その際、ワークシート等を活用しながら情報収集する。収集した情報が、真実であるかを常に確認（ファクトチェック）し、表現することに十分であるかを認識し、情報収集の質の向上を図る。

〇３年次 「自己実現」

進路活動を通して自分と向き合い、自己実現に向けて自分らしい働き方を見つけながら、理想的な生き方を探究する。その際、客観的な評価に基づく振り返りを促進し、自己評価の再確認も行う。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

〇指導体制

・全体計画、年間計画は教務部、進路指導部、年次担当者が連携し、校内組織「探究活動・「道徳」教育推進委員会」を中心に作成する。

・「総合的な探究の時間」にとどまらず、地歴公民科「地理探究」「日本史探究」・家庭科「課題研究」・商業科「課題研究」等を中心とする他の授業とも連携を図り、生徒の教科横断的な探究力を高める。

〇地域との連携

・活動を通して、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資産も含めて活用し、教育を学校内に閉じることなく、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させる。